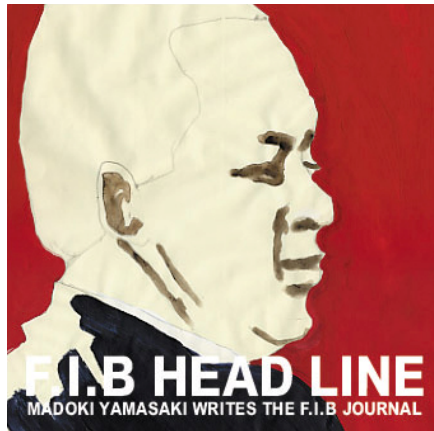


MADOKI YAMASAKI WRITES THE F.I.B JOURNAL F.I.B HAED LINE

■2003/10/11 Release ■cat#:bss003 ■2,800yen (w/o tax)



MADOKI YAMASAKI WRITES THE F.I.B JOURNAL "F.I.B HAED LINE"

N. Y. アンダーグラウンド、U. K. クラヴ・ジャズ好きの方は要チェック！JAZZY でうねるウッド・ベース、骨太でグルーヴ感あふれるドラムに、メッセージ色の強い歌詞を、艶気あるヴォイスでリーディング。最強に男臭く、挑発的で図太いアルバム完成です！

NOISE ON TRASHのVocal、Guitarとして、また、リーディングイベントBOOKWORMの主宰として知られる山崎マドキのソロ・プロジェクト”Madoki Yamasaki writes the F. I. B journal”。PHATのドラム沼直也氏、mama!milkのベース清水恒輔氏、青柳拓次氏を中心に、アンダーグラウンドシーンで活躍する個性の強いミュージシャンらが集結し、彼らとのセッションから生まれた遊び心と緊張感、そして現在の歪んだ世の中を洞察した、意志のある音源です。

About "F.I.B HAED LINE"

私はJAZZミュージシャンではありませんが、今回のプロジェクトのレコーディングはとてJAZZ的な物だったと思います。理論では無く、たとえば人と人が出会った際に必要なコミュニケーションを私達は「言葉」では無く、「音」を使ったという様に。私の旧知の友人から、新しく出会った人までとの多くの「会話」が出来たと思います。故に今回は、偶然その日集まった人達と音=お互いの共通言語をセッションで見つけ、広げて行く、といった様な方法で録音しました。そこには今日出会った人との初々しい関係や、ぎこちなさなどがドキュメントとして赤裸々に、そして何よりも自由に写っているはずです。

～"F. I. B journal"という名称について～

古い英語に"fib/悪気の無い嘘をつく"という意味があります。この言葉に"journal"を付ける事で「偽装新聞/偽装報道」というニュアンスを持たせています。故に今回のリリースはNEWS/社説/コラムの形式で書きました。今日の報道が偽装やプロパガンダで無い事を祈りつつも、"F. I. B journal"は今日に置ける報道の状況をブラックジョークを持って捉えた"fib-journal"です。(2003.7.30 F.I.B JOURNAL 社 山崎マドキ)

Discography

- '96 NOISE ON TRASH/ V.A "Sign off from Amadeus" (MIDI Creative)
- '99 NOISE ON TRASH/ Mini Album "Fin" (MIDI Creative)
- '99 NOISE ON TRASH/ Full Album "Laugh" (MIDI Creative)
- '00 NOISE ON TRASH/ V.A "First filtration of the duplex brains" (Beams records)
- '01 NOISE ON TRASH/ V.A "Mirror ball songs"(Electric sal)
- '01 NOISE ON TRASH/ Full Album "Sonic mobile" (MIDI Creative)
- '01 NOISE ON TRASH/12inch "Round sonic" (MIDI Creative)
- '02 NOISE ON TRASH/ Mini Album "Sketch" (chordary)
- '02 mama!milk/ Mini album "meets madoki yamasaki" (Raft music)
- '03 Madoki Yamasaki writes the F.I.B journal/single "other side journal"(basis records)
- '03 BAYAKA/ Full Album "I deadcate to .." (ode music)にVocalで参加。。

Details

- ⇒artist : MADOKI YAMASAKI WRITES THE F. I. B JOURNAL
- ⇒title : F. I. B HAED LINE
- ⇒label : basis records
- ⇒cat. # : bss003
- ⇒price : 2,800(Tax Not Included)
- ⇒date : 2003/10/11

Profile

山崎円城(ヤマサキ・マドキ)音楽家/文筆家。
1970年川崎デルタ地帯生まれ。幼少期、ゴミ捨て場でエアオルガンを手にしたのを機に独学で詩作・作曲を始める。20代よりストリート・ペインティングの手法でゲリラ的に公共の壁に自作の詩を発表し始める。(ゲリラ中に警察にしょっぴかれ現在刑法一犯)
NOISE ON TRASH(Vocal, Guitar)として現在まで数々の作品を発表。1998年よりリーディングイベントBOOKWORMを主催。2002年には雑誌BOOKWORM MAGを創刊させる。また同年、mama!milkと共同制作し発表した作品「meets madoki yamasaki」も記憶に新しい。

Members

～ THE F.I.B JOURNAL WEST～

- ⇒山崎マドキ (Vo, Gt. (NOISE ON TRASH/BOOK WORM)
- ⇒清水恒輔 (bass / mama! milk)
- ⇒沼直也 (drums / ex-phat)
- ⇒TOY 森松 (percussion)
- ⇒道下克巳 (tp)
- ⇒登敬三 (sax)
- ⇒岩井ロングセラー (piano/A.S.P)
- ⇒土居秀行 (hand drum/沙弥音)

～ THE F.I.B JOURNAL EAST～

- ⇒山崎マドキ (Vo, bass)
- ⇒青柳拓次 (percussion, key, slide, guitar / Little creatures/KAMA AINA)
- ⇒家入哲也 (percussion/choro azul)
- ⇒出利葉信之 (sax/ロレッタセコハン)



Information : info@basisrecords.com TEL: 080-3796-5990(立岩まで)

basis records 〒5330031 大阪市東淀川区西淡路 2-16-4-201 FAX:06-6990-2550

歌詞、非常にメッセージが強いので、出来れば皆さんにみていただきたいものです。

*reportage

1. "膠着と監禁"

赤いビートルで南下
前方には老朽化したフィアット
ハイビーム15発で障害物除去。
「ビタミン不足気味やな」と
助手席のゴリラ
ホワイトラム吸引。

くまなく旋回するタバコの残像
左折。

2、3、2、3、4、2、1
ギアチェンジ
pm 11:15、
時速55kmで未来へと向かう。

日常生活出口無し
右折。左折。紆余曲折。

景色は目まぐるしく過去へと過ぎ去った。
掘っては、
埋める。
工事はあいも変わらず意味なく続く。
渋滞、停止。
「他の道ねえのかよ！！」ゴリラ急浮上
アニマル タコメーター全開。
膠着、ある意味監禁状態。
排気ガスにむせる。
そういえば、北の世界で似たような状況の最悪なニュースが
今日あった。
2002.10.28
ホワイトラム再び吸引。

頭の中ではラムが立てこもり、占拠しようとしている。
たぶん全てがゆるやかに忘れ去れるだろう。
あらゆるニュースと同じように。
「日常」という曖昧な名称の
アミの目みたいな道の上で。

*この文章は作者が
wasteland 掲載詩
青柳拓次「千百」の続編として
描いたものです。

2. THE OTHER SIDE JOURNAL
(REPORTED BY MADOKI YAMASAKI)

こんにちは、こちらはOTHER SIDE JOURNAL TOKYOです。
本日付けのAREA NEWSをお伝えします。

当局の知らべによると
ルーズソックスなどのブームを手掛た
バイオニア会社「MK5」
がブームの衰えに伴う売り上げ激減を受けて
民事再生法の摘要を申請しました。*MK5=マジグレ5秒前の略

またMK5のユーザーである渋谷区に集まる10代の女性、
通称コギャルと呼ばれる人達も本日
東京都から絶滅種族に認定されました。

この様に流行の移り変わりが激しい同地区の今後を
ファッションジャーナリストのB氏が予測。
「2005年は裸が流行するだろう」との事。

これを裏付ける様に当局では
本日、同地区の路上でストリーキングのパフォーマンスを
成功させた人が3名いるという情報を独自に入手しました。
「政治にも裸の付き合いが世界的に必要」と
成功者の1人はコメントを残しています。

また一般的には政治に無関心だと言われる同地区の若者に、
当局では「現在の世界緊張を緩和させるには何かが必要か？」という
アンケートを実施した所、
「踊り」と答えた方が55.5%にのぼりました。

この結果を受け、心理学者のD氏は
これを「動物的直感から来る真理」と分析。
また、「銃口を突き付け合っても、解りあえない事は
うんざりするぐらい歴史が証明してるわけですから、
この際銃を捨てて、踊りで異文化交流してみても？」
というコメントも残しています。

続いて明日の天気をお伝えします。

明日の東京の天気は曇り、
温度/体質共に生温いかぎりでしょう。

続いて世界では
まだ所々、苦渋の涙が降り続くでしょう。
大なり小なり、未だにくり返される
戦争という悲しみの使者に召される様に。f

3. BREAK ON THROUGH (To The Other Side)

You know the day is as strong as the night
Night divides the day
Try to run, try to hide

Break on through to the other side..

We chased our pleasures here
Dug our treasures there
Dug our treasures there
Can't you still recall
The time we cried
Break on through to the other side..

Everybody loves my baby..
seek it....

I found an island in your arms
Treachery in your eyes
Arms that tease
Eyes that lie
Break on through to the other side..

Wait and see
Week by week
Day to day
Hour to hour
Way to straight
Deep and wide
Break on through to the other side..

(words and music The doors)

*area news

4. 「BORDERLESS COUNTRY CAB」

みなさんは「ボーダレスカントリータクシー」を御存じだろうか？
最近では東京ではあまり見かけなくなったが、
創業から60年間、世界狭しと走り回って来た。
しかし、中東とアメリカによる石油独占抗争が発端による
オイルショックにて、現在廃業の危機に瀕している。
そこで勤務歴58年の名物ドライバー
日系2世のMr スズキーに話を伺ってみた。
「いやあ寂しいかぎりですよ」とMr スズキー。
彼はもの悲し気にタクシーを見つめる。
そこで、いままでのエピソードなどを尋ねてみた。
「いやあ、そりゃいっぱいありますよ。
お祈りする間、タクシーを止めろだの、
牛や豚を追いこしちゃいけないだの、
突然、お祝だといって車から爆竹投げる人もいるわ、
そうそう、私の車は日本式土足厳禁車なんですかね、
みなさん、靴のまま上がられるんでホトホト困り果てましてねえ。」
彼は続ける。「まあいろんな人がいますけど、
わたしやそんな人達が好きなんでねえ..」と。

*interview

5. Dr Smoky

Dr Smoky は1937年生まれ、
彼は思春期の頃より人生を哲学してきた。
「人間よ二酸化炭素を食え！」とは彼による有名な言葉だが、
意味不明になりつつあるこの言葉の真意を
2000年以降の不安定な世界私達が生き抜く為に
改めて検証するべく、
御年65才になる彼にインタビューを試みた。

記者：「こんにちは。」
Dr：「こんにちは。」
記者：「例の二酸化炭素についてですが..」
Dr：「食べてるか？」
記者：「えっ？」
Dr：「食べているか？と聞いているのだ。食べていなければダメだ。」
記者：「あっ、た、食べています。」
Dr：「よろしい。ではアロエはどうだ？」
記者：「えっ？アロエですか？」
Dr：「うむ。君は私の”今こそアロエ人間宣言！”を知らないらしいな。」
記者：「..... すいません。」
Dr：「うむ。このアロエ宣言/二酸化炭素定義は現代における環境問題に事を発している。」
記者：「すいません、その真意とは？」
Dr：「うむ。私達が住むこの多くの環境問題をかかえる現代社会では、
二酸化炭素という自分達の排出物を自己回収し、かつそこからの栄養摂取
できる能力がこれからは必要とされるだろう。
また、アロエのように自ら薬として生きる多角性な人間にならなければならない。これが定義だ。」
記者：「.....なるほど。」
「取材御協力ありがとうございます。」
Dr：「うむ。」

6. The zoo story's theme (instrumental)

*editorial

7. 「見えない物を見るために」

見えない物を見るために
ぼくらはまず服を脱がなきゃいけない。
見えない物を見るために
性別の垣根を壊さなきゃいけない。
そして、国籍を忘れて
宗教というものを部屋のクローゼットの中に
ひとまず閉まわなきゃいけない。

見えない物を見るために
汚れてしまった歴史を1度、飲み込まなきゃいけない。
見えないものを見るために
その人が貧しいとか、豊かだとか
そんな価値観は捨てなきゃいけない。
そして、残ったものを信じよう。

人生の河口へとゆっくり歩きながら。

*editorial

8. 「枯れ逝くルーツ」

ぼくは思い出したい
ぼくらの種がどこからきたのか？を
ただ思い出せない
ぼくらは本当の水の味を忘れてしまった..
そしてきっと
この世の土地を全て舗装しつくした後に
(ぼくらは) きっと還らない土の臭いを思い出す..

9. 「喪服を着た政治家」

極東の島国では慢性的なデフレの影響で
黒めの服/喪服が
霞ヶ関を中心とした政治家/役人の間で流行した。
この状況を見たファッションジャーナリストA氏は
「さじを投げている事の表れ」と解説。
これを受けるようにある大物議員は
「この様な御時世に
君の様な服は不謹慎である。」と
取材クルーを罵倒。
故にこの様な状況下の今日の国会では
おくやみのような答弁と
通夜のようにうつむく議員が続出。
結局はいつもの様何も進展せず
今日もまた閉会。

*reportage

10. 「終わらない工事/穴を掘る100人の人々」

「穴を掘り、埋める。」
日夜問わず繰り返される工事、
それが発端で生活に支障をきたす騒音と渋滞。
精神増築工事、増え続ける未来ジブシー族。
統計では
10代の人々に関する工事は特に年度末に多く、
20代の人々は主に夜間工事。
30代からはわりと1回の工事にかかる
リスクと心理負担が大きいようだ。
「まあ、この年度末の時期掘つとかなないと、
来年、国からの予算下りずらくなるからなあ..」
東京で土建業を営む10代のAさん。
この意見を受けて
当F.I.B JOURNALでは
さまざまな問題を含むこの終わらない工事問題について
急ぎよ、東京で穴を掘る100人の人々にアンケートを行ってみた。
Subject "あなたが掘る理由は何ですか?"

- 1 自分探し/42名
- 2 スキル向上/28名
- 3 なんとなく/15名
- 4 国からの公共事業に癒着/10名
- 5 リオデジャネイロまで掘りたい/1名
- 6 無回答/4名

以上、次回の特集はリオデジャネイロの土建業についてをお送りします。

11. GOOD NIGHT DUNIA WORLD MONDE
(instrumental)

12. 「ピアニストを撃つな！」

ピアニストは演奏する。
「ピアニストを撃つな！」と掛けたり紙の下で
現実の話した。
アメリカ旧西部、19世紀の後半。
でも誰かのエゴで誰かが傷つくというのは
今でも変わらないだろう？
一方通行の平和が別れの平和を散弾銃でねらい撃ち。
奇妙なものだね。
その平和は毒持ちだと
オレは石を投げるぜ
鳩みたいな爆撃機
平和の汚物が空からあんたを狙ってるぜ。
自慢の帽子が汚れるまえに
オレ等はピアニストを捜さなくちゃいけない。
白鍵と黒鍵を指盤の上で繋ぐ
自由な和音が奏でられるピアニストを。
できれば歌ってほしいものだ
「もう一方の平和」を願って。

ねえジーザス、アラー。

13. OTHER SIDE JOURNAL (commons & sense version)

タイトル : F.I.B HEAD LINE
アーティスト : MADOKI YAMASAKI WRITES THE F.I.B JOURNAL

- 1 DEADLOCKED AND CONFINED
(words madoki yamasaki/music madoki yamasaki,ko-suke shini zu)
- 2 OTHER SIDE JOURNAL (Trio version)
(words and music madoki yamasaki)
- 3 BREAK ON THROUGH
(words and music The doors)
- 4 BORDERLESS COUNTRY CAB
(words madoki yamasaki/music iwai longseller)
- 5 Dr SMOKY
(words and music madoki yamasaki)
- 6 THE ZOO STORY'S THEME
(music madoki yamasaki)
- 7 TO SEE THE INVISIBLE
(words madoki yamasaki music tetsuya iei ri)
- 8 THE ROOTS GONNA BE DRIED
(words madoki yamasaki /
music madoki yamasaki,hi deyuki doi,naoya numa)
- 9 POLITICIAN IN MOURNING
(words madoki yamasaki/music ko-suke shini zu)
- 10 ENDLESS CONSTRUCTION - 100 PEOPLE DIGGING OUT
(words madoki yamasaki/music madoki yamasaki,shui chiro sakaguchi)
- 11 GOODNIGHT, DUNIA WORLD MONDE
(music madoki yamasaki,takuji aoyagi)
- 12 DON'T SHOOT A PIANIST
(words and music madoki yamasaki)
- 13 OTHER SIDE JOURNAL (commons & sense version)
(words and music madoki yamasaki)

produced by madoki yamasaki and kenichi tateiwa (basis records)

all the songs arranged by the composers + the F.I.B journal

JOURNALISTS FOR THE F.I.B WEST are
madoki yamasaki..vocal=editor/reporter, guitar, tape recorder
scratch ko-suke shini zu (mama!milk)..contrabass naoya numa..drums

additional musicians
iwai longseller (A.S.P)..piano, organ (3, 4, 12, 13)
toy-morimatsu .. percussion, shaker (2, 3, 12, 13)
katumi nichishita .. trumpet (1, 3, 9, 12, 13)
keizo nobori .. tenor sax, bari-tone sax (1, 9, 10)
hi deyuki doi (shamion) .. hand drum (8)
kenichi tateiwa (basis records) .. car (1)

recorded, mixed by toshiaki kitahata at alchemy studio
assist by tomoko nagao

JOURNALIST FOR THE F.I.B EAST (5, 6, 7, 11) are
madoki yamasaki..vocal=editor/reporter, bass, guitar-banjo, handclap,
tape recorder scratch takuji aoyagi (KAMA AINA) .. slide guitar, udo,
monopoly, organ, ukulele, handclap, Dr smoky's voice tetsuya iei ri
(choro azul) .. percussion, marimbula, telephone S.E

additional musicians
nobuyuki iderihara (roletta sechohan)..alto sax (6)
haruko yamasaki..voice (10, 11)
hinata yamasaki..the first cry (6)

recorded by shinjiro ikeda (6, 11) masuda tosh (5, 7)
at KAMA AINA's room

mixed by shinjiro ikeda
mastered by toshiaki kitahata at alchemy studio
translation and linguistic help by kenjiro otani/heather
art direction & design kaoru sasaki (cube)
(PV by kuzuhara?)仮
distributed by UNIVERSAL MUSIC KK/IMS

a&r, executive produced by kenichi tateiwa (basis records)